

UTCP
シンポジウム

建築 保存 の 現在

近年とみに、歴史的建造物を様々な形で「保存」する試みが盛んとなっている。その形式は、現状そのままの「保存」から、アッサンブラージュのような「一部保存」、転用やリノベーション等、様々である。このような状況を、具体的事例に即しつつも俯瞰的視点から再考するために、このシンポジウムでは、日本における「建築保存」の特異な二形態——「三菱一号館」と「原爆ドーム」——に焦点を当て、分析と議論を行う。現在の日本において「歴史的建造物の保存」が有する、政治的・社会的・文化的な意味を浮上させることが、当シンポジウムの最終的な目的である。

【提題者・レスポンドント】

中谷礼仁 (なかたに・のりひと | 早稲田大学准教授)

保存とは何か——建築における生と死とを考える

【発表者1】

内田祥士 (うちだ・よしお | 東洋大学教授・建築家)

三菱一号館——その解体と再現の背景を考える——

【発表者2】

穎原澄子 (えばら・すみこ | 九州産業大学講師)

「原爆ドーム」をまもってきたもの

【コメンテーター】

田中純 (たなか・じゅん | 東京大学教授 | UTCP)

【司会者】

小澤京子 (こざわ・きょうこ | UTCP)

2010年11月11日 | 木
17:00–19:00

東京大学駒場キャンパス
アドミニストレーション棟3F | 学際交流ホール

入場無料 | 事前登録不要

主催 | 東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)
中期教育プログラム「イメージ研究の再構築」

University
of Tokyo
Center
for Philosophy